



| | |
|------------|---|
| Title | 浜松市博物館が所蔵・管理する近代医療史関連資料「七科約説」と浜松の近代医療史 |
| Author(s) | 栗原, 雅也 |
| Citation | ぶつくとらつく 24(2): 3-4 |
| Issue Date | 2016 年 3 月 |
| Type | 出版社版 |
| URL | http://hdl.handle.net/10271/3331 |
| Right | |

浜松市博物館が所蔵・管理する近代医療史関連資料

「七科約説」と浜松の近代医療史

浜松市博物館 学芸員 栗原雅也

はじめに

1878 年（明治 11）、浜松県立浜松病院院長で浜松医学校長であった太田用成と医師たちが翻訳出版した「七科約説」は、西洋医学の本格的な教科書がなかった当時、全国に普及し長く医学界で使用された。浜松市内に現存する「七科約説」は、浜松市の文化財に指定された浜松市立中央図書館所蔵本と、国立大学法人浜松医科大学、浜松市博物館、個人の所蔵が知られている。七科約説と浜松の近代医療の歴史の一部を垣間見てみよう。

会社病院の開設

1871 年（明治 4）、廃藩置県により旧藩が設けた病院は廃止され、各地に新たな会社病院と医学校が設立された。浜松では 1873 年（明治 6）、三方原開拓や堀留運河開削を行った引佐郡気賀の気賀半十郎、同心遠慮講を始まりとして後の静岡銀行の基となる新遠州銀行を作り、平野社団を設立して社会事業を行った平野又十郎、磐田郡見附の古沢五平、気賀半十郎とともに静岡県内初の国立銀行、第二十八国立銀行の設立に関わり、社会事業にも尽くした磐田郡中泉村の青山宙平、青山徹父子たちの出資により、荻生汀らを医師として、紺屋町に会社病院が設立された。

浜松県立病院の誕生

この会社病院は、翌 1874 年（明治 7）1 月、浜松県立病院として改組された。4 月、利町に新築移転すると、医学校が併設され医学教育も行われるようになった。

1875 年（明治 8）、太田用成が浜松県立浜松病院院長兼医学校長として着任した。

太田用成

1844 年（弘化元）、信州飯田藩士の三男として生まれた用成は、幼くして飯田藩御殿医、太田家の養子となった。1859 年（安政 6）横浜が開港して間もなく、横浜でアメリカ人医師について医学を学び、郷里の飯田で開業した。その後県立浜松病院長に就任した用成の業績は、浜松病院医会を開設し、「七科約説」の翻訳、出版をしたことが知られている。

1891 年（明治 24）、県立浜松病院廃止とともに浜松町大工町で開業した用成は、1912 年（明治 45）7 月 15 日長逝した。墓は浜松市中区鹿谷町、善正寺の墓地の北側の一角に設けられた、キリスト教墓地にある。

浜松病院医会開設

1877 年（明治 10）、太田用成と浜松病院医員、医学校教員は静岡県令に対し医会開設を建議し、「浜松病院医会規則」が制定された。

「設医会建議」は、「・・・・・・医生大卒陋劣ニシテ、其術ヤ乏ク其行ヤ拙ク、実ニ衛生ノ何タルヲ弁哲スル者殆ント無キカ如シ・・・・・・医生ヲ勸奨シ其術ト行トヲ督整シ、以テ此実績ヲ民間ニ推及セントス、依テ管内ノ医人ヲ会同シテ共ニ俱ニ之ヲ議リ、而后初テ正鵠ヲ得ル・・・・・・」と旧来の医師の研修の必要を説き、「・・・・・・医会条例ヲ設ケ、権限ヲ定メ且ツ議案ヲ編綴シ以テ対策ヲ為サシメ、総テ衛生上ニ裨益アル者ハ連ニ之ヲ上陳シ、其職務上ヲ補弼センコト実ニ

用成等ノ主任ニシテ須臾モ黙止ス可ラサル所ナリ・・・・・・」と述べ、医師等の組織と、衛生思想の普及と実践を説いている。浜松病院管内の医師たちを医会に組織し、毎月定例の医学講習会を開催し、市民の衛生思想を高めるよう普及活動を行ったのである。

「七科約説」

1878 年（明治 11）、太田用成と県立浜松病院医学教員の柴田邵平、虎岩武は、医学校の教科書として、ペンシルバニア大学のヘンリー・ハルツホルン教授が 1874 年に刊行した「*Conspectus of Medical Science*」を翻訳して出版した。その内容は、解剖科・生理科・化学科・薬物科・内科・外科・産科の七科にわたることから「七科約説」と名付けられた。

当時の販売広告（明治 11 年 6 月 25 日「医事新聞」第 2 号）によれば、「上編ニハ解剖科・生理科・化学科及ヒ薬剤科第十項迄ヲ編載シ、下編ニハ薬剤科第十一項ヨリ内科・外科・産科ヲ論述シ、且書中図式ヲ以テ説明スル所多ク、・・・・・・医学講習或ハ臨床探訪等ニ甚タ適合セリ」と述べられている。

浜松の印刷文化

その印刷も浜松の印刷会社、開明堂でおこなわれた。当時の浜松の印刷史を抜粋する。

- ・1873 年（明治 6）、浜松県御用印刷所として開明堂、鞍智逸平が布達書を木版印刷する。
- ・同年、木版誌「浜松新報」が出版される。
- ・1874 年（明治 7）、開明堂、鞍智逸平が、活版印刷を始める。
- ・1876 年（明治 9）、鈴木宗甫が、活版紙「浜松新聞」を発行する。
- ・1877 年（明治 10）、渡辺安次郎が、平板印刷を始める。

活版印刷で印刷され、精緻な木口木版の美しい図版を具えた「七科約説」は、民間の洋式活版印刷が始められたばかりの当時、浜松の印刷文化の高さを示すものである。

おわりに

天然痘、赤痢、コレラなどの伝染病が猛威を振るっていた近代日本における医療の歴史は、衛生思想の普及と医療制度の確立の歴史であった。1874 年（明治 7）に発布された「医制」の第 2 条には、医事行政の目的を「人民ノ健康ヲ保護シ疾病ヲ療治シ及ヒ其学（医学）ヲ興隆スル」と述べている。すなわち①衛生行政機構を整え、②医学教育を確立し、③医師開業免許制度を樹立し、④薬剤師と薬事制度を確立することが「医制」の柱であった。

太田用成らが「設医会建議」で目指した旧来の医師の研修や、衛生思想の普及と実践のため医師を医会に組織化しようとしたことは、「医制」の求めるところだったといえよう。そして、医学教育のための適切な医学書がなかった当時、太田用成らが翻訳、出版した七科約説は全国の医療関係者の注目の的となったのである。

参考文献

- 厚生省医務局編『医制百年史』記述編、ぎょうせい、1976
- 浜松市史編さん委員会編『浜松市史 新編史料編』二、浜松市、2002
- 土屋十朗『静岡県の医史と医家伝』戸田書店、1973
- 伊藤正好「日本最初の医学翻訳全書『七科約説』出版にたずさわった人々」『遠江』15 号、社団法人浜松史跡調査顕彰会、1967
- 栗原雅也「七科約説と浜松の近代医療史」『浜松市博物館報』第 25 号、浜松市博物館、2013